

《投稿規程》

Instruction to Authors

2026 年 7 月 3 日

1. 鶏病研究会報は、本会の趣旨に沿った内容を持つ解説・総説および会員による投稿原稿などを掲載する。

2. 投稿区分は次のとおりとする。

解説・総説：すでに認められた業績、技術あるいは情報などについての解説で、編集委員会が依頼あるいは承認したもの。

研 究 報 告：新知見を含む学術報告としてまとめられた原著論文。

業績ノート：症例報告、調査成績、衛生指導成績など、研究論文として十分整理されていない知見や速報的な短い論文。

資 料：関連の学術情報の速報、調査資料、統計資料、通達など。

文 献 紹 介：外国雑誌の訳、抄訳。

そ の 他：上記区分以外の原稿も、本会報の趣旨に沿うものは掲載する。

3. 「研究論文（研究報告および業績ノート）」の執筆要領

- 1) 原稿は原則としてワープロソフト(Word)で作成し、A4 用紙に 24～26 行、1 行約 40 字とする。

- 2) 最初の頁は表紙とし、希望する投稿区分、表題、著者名（全員）、所属機関および住所（全員）を記載する。筆頭著者（連絡責任者）の E-mail アドレスを記載すること。2 頁以降を本文とする。原稿には 1 ページ目タイトルから行番号を入れる。なお、投稿区分は最終的には編集委員会で決定する。

- 3) 筆頭著者と共著者の所属・住所が異なる場合は、共著者名の右肩に^{1), 2)}を付けそれぞれの所属・住所を記す。

- 4) 筆頭著者の所属・住所に変更があった場合は、著者名の右肩に¹⁾を付し、投稿時の所属・住所の下に¹⁾現在：所属、住所（英文では、¹⁾ Present Address：所属、住所）を記す。

筆頭著者ではなく、共著者が論文の連絡責任者である場合、連絡責任者の氏名を表紙最下段に記入する。連絡責任者となる共著者名の右肩に†を付す。

- 5) 本文は次の項目および順で記載する。

①要約（和文）、②キーワード 5 語以内（ローマ字表記時の ABC 順に記載）③緒言、④材料と方法、⑤成績、

⑥考察、⑦文献、⑧英文要約*¹⁾（Summary）。英文要約は表題、著者名、所属、住所、本文、キーワード（ABC 順）とする。

なお、⑧の英文タイトルは、書き出しと固有名詞の 1 文字目を大文字とするが、あとは小文字で記載する。

- 6) 業績ノートは研究報告のような項目別に記述する必要はないが、それに準じて簡潔に短く記述する。定法にしたがった方法などは詳細に記述する必要はない。

- 7) 中見出しの記号は次のとおりとする。

1. 1) a) a)
2. 2) b) b)

- 8) 謝辞は必要な場合、考察の最後に追記する。

- 9) 引用文献は本文中の引用箇所右肩に^{1), 2-5)}のように記載する。

- 10) 共著者が 2 名の場合、本文中に 2 名を並記する（A と B）のように（Mase and Kanehira⁷⁾）。3 名以上の場合には和文論文では“ら” 欧文論文では“*et al.*”とする。

- 11) 引用文献の略誌名は別記 1（引用文献に用いる雑誌、定期刊行物の略号名）<http://keibyo.jp/contribution> を参考に、和文論文は和文で、欧文論文は欧文で記載する。なお、欧文略誌名は Web of science という論文検索サービスに収録されているすべての雑誌の略称を以下の URL で検索できる。https://images.webofknowledge.com/images/help/WOS/B_abrvjt.html。コントロール F (Ctrl+F) でページ内検索する。配列は筆頭著者名の ABC 順とする。同一著者の場合は古い順に年代順とする。同一著者・同一巻号誌の場合は若いページ順となる。共著者が 3 名以内の時は全員を、4 名以上のときは和文論文では“筆頭著者ら”，欧文論文では“筆頭著者 *et al.*”と記載する。その際の配列は、共著者 3 名までの文献は第二著者、第三著者の ABC 順とし、そのあとに 4 名以上の“ら” または“*et al.*”を古い順に年代順に記載する。“ら”や“*et al.*”の第二著者の ABC 順は考慮せず、古い順に年代順とする。記載例を以下に示す。

- 1) Gast, R.K. and Poter, R.E. : *Salmonella* Infections, pp.717-753. *In*: Diseases of Poultry, 14th ed. (Swayne, D.E. et al. eds.), Wiley-Blackwell,

- Hoboken, New Jersey (2020)
- 2) Georgiades, G. Iordanidis, P. and Koumbati, M. : Cases of swollen head syndrome in broiler chickens in Greece. *Avian Dis.* 45, 745-750 (2001)
- 3) 橋田明彦ら：シイタケ廃菌床に起因したと思われるブロイラーのアスペルギルス症. 鶏病研報 52, 101-105 (2016)
- 4) Hodges, R.D. : The Histology of the Fowl. Academic Press, London (1974)
- 5) Mase, M. : Hemagglutinin-neuraminidase gene of genotype VII Newcastle disease virus strains isolated in Japan. *J. Vet. Med. Sci.* 84, 1-5 (2022)
- 6) Mase, M. Iseki, H. and Watanabe, S. : Complete genome sequence of a fowl adenovirus D strain isolated from chickens with inclusion body hepatitis in Japan. *Microbiol.* 10, e00940-21 (2021)
- 7) Mase, M. and Kanehira, K. : Simple differentiation of avirulent and virulent strains of avian paramyxovirus serotype-1 (Newcastle disease virus) by PCR and restriction endonuclease analysis in Japan. *J. Vet. Med. Sci.* 74, 1661-1664 (2012)
- 8) Mase, M. *et al.* : Phylogenetic analysis of avian infectious bronchitis virus strains isolated in Japan. *Arch. Virol.* 149, 2069-2078 (2004)
- 9) Mase, M. *et al.* : Genotyping of Newcastle disease viruses isolated from 2001 to 2007 in Japan. *J. Vet. Med. Sci.* 71, 1101-1104 (2009)
- 10) Mase, M. *et al.* : Identification of group I-III avian adenovirus by PCR coupled with direct sequencing of the exon gene. *J. Vet. Med. Sci.* 71, 1239-1242 (2009)
- 11) 真瀬昌司ら：PCR-RFLP 法を用いたトリアデノウイルスの型別. 鶏病研報 56, 112-116 (2020)
- 12) Mase, M. *et al.* : Identification of specific serotypes of fowl adenoviruses isolated from diseased chickens by PCR. *J. Vet. Med. Sci.* 83, 130-133 (2021)
- 13) 農林水産省：薬剤耐性対策行動計画の周知と動物抗菌性物質製剤の慎重使用の徹底について. (2016)
http://www.maff.go.jp/nval/hourei_tuuti/pdf/28_shoan_3049.pdf
- 14) 小野雅章：鶏アデノウイルス感染症. pp. 64-67. 家禽疾病学第2版, 鶏病研究会編, つくば(2021)
- 12) 図, 表, 写真は本文中に挿入せず, 別紙にまとめる。写真には説明文を付す。
- 13) 表に脚注を要する場合は, 表示語句の右肩に a), b), c) を付記し, 表の下欄外にそれぞれの説明を記す。
- 14) 図, 表, 写真の使用は必要最低限にとどめ, 可能な限り本文に記載する。
- 15) 用いる漢字は専門用語を除いて原則として常用漢字の範囲とする。略号を使用する場合は, 論文中ではじめて使用する箇所に完全な語を挙げ, その後に略称をカッコ内に示す。学名などイタリックで記すものは, イタリックで印字する。
- 16) 動物名は一般に使用されているもの(人, 鶏, 七面鳥など)は漢字で, その他はカタカナで記す。
- 17) 鶏病に関する用語は鶏病用語 2025(鶏病研究会ホームページ参照)を用いる。年号は, 原則として西暦を用いる。
- 18) その他の用語・用字は本会報で慣用しているものを用いる。別記2(本会報で用いる用語例)
<http://keibyo.jp/contribution> を参照する。
4. 「研究論文(研究報告および業績ノート)」以外の原稿の執筆要領
- 1) 記載の体裁は自由とし, 用語などは研究論文と同じ。
- 2) 解説・総説には研究論文に準じた英文要約および引用文献を載せる。そのほかの原稿には必要に応じて引用文献を付す。
5. 原稿は表紙から引用文献および英文抄録までを1つのファイル(Wordで作成)とし, 図表および写真のファイルとともに提出する。メール添付の場合は, 本文はファイル名を“筆頭著者氏名 本文”とし, 図, 表, 写真は“筆頭著者氏名 図, 表または写真”とし, 事務局(keibyokenkyukai@keibyo.jp)へ送付する。郵送の場合は2部(図, 表, 写真とも)提出する。審議中に元ファイルの提出を求めることがある。
6. 投稿原稿は, 図・表も含めて刷り上り5頁(1頁2,390字)以内とする。超過頁印刷およびカラー印刷については実費を著者負担とする。画像ファイルは解像度の高いものを送付すること。

7. 研究論文（研究報告および業績ノート）は、本会報の編集委員を含む 2 名の審査委員が審査し、編集委員長が採否を決定する。動物の取り扱いに倫理上の問題があるものは採用しない。
8. 審査において、内容、用語などが不適切な原稿は、修正を求めることがある。修正稿を提出する際には“審査員コメントに対する対応”を添付する。修正稿には、修正箇所を黄色ハイライトし、削除部分は取り消し線で示す。
9. 本会報への投稿料は無料とする。
10. 別刷は希望者に実費で配布する。希望者は事務局に前もってその旨を申し込む。
11. 会報に掲載したものの著作権は、鶏病研究会に帰属する。これを利用しようとするものは、鶏病研究会の許可を得なければならない。
12. 原稿は下記へメール送付とする。

keibyokenkyukai@keibyo.jp

〒305-0856 茨城県つくば市観音台 1-21-7

サンビレッジ川村 C-101 鶏病研究会

*1 原則として、解説・総説、研究報告、業績ノートには英文要約をつける。

英文要約の校閲は本会が行う。